

紙芝居

はだしのゲン 第二卷

1991年4月発行 (16場面)

発行者 吉元 尊 則

発行所 株式会社 汐 文 社

東京都文京区本郷1-26-10
電話03(3815)8421

印刷・製版 鶴飛来社



紙芝居

はだしのゲン

第二卷

①

中沢啓治 作・絵

ゲン 「わしやゲンじゃ。

元気のゲンじゃ。

わしやどんなにつらいことが

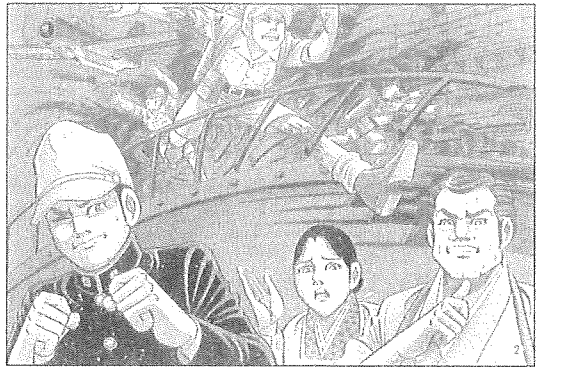
あってもめげんぞ!

わしやゲンじゃ。

元気のゲンじゃ!

……ぬく……

〔演出ノート〕
明るく、元気よく



②

ある日のことでした。学徒動員で兵器工場に働きに行っている浩二^{こうじ}あんちやんが家に帰ってきていきなりいきました。

浩二

「お父さん、お母さん。わしは兵隊になる。そして敵をたくさん殺して勇気があるところを見せてやるんじゃ」

おどろいたお父さんとお母さんは怒りました。

大吉

「浩二、本当の勇気は自分の命を大切にし、みんなの命を大切にすることなんじゃ。」

兵隊に志願するのはやめろ！

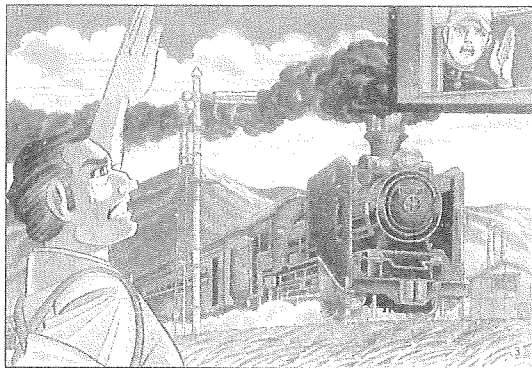
戦争に行けば、手足をばらばらにされ、殺されてしまうんじゃ」

お父さんもお母さんも、これまで大切に育ててきたかわいい子どもが戦争で殺されるのは、たまらないほど悲しいのです。

……ゆっくりぬく……

はっきりと

怒りを込めて力強く



③

大吉

「浩二、考えなおせ。命を大切に
するんじゃ」

君江

「ほうよ、やめて」

けれども、いくらいきかせても浩
二あんちゃんはききません。

浩二

「わしは弱虫とばかにされとうな
い！ 非国民といわれとうないんじ
や！」

お父さんが戦争に反対して警察につ
かまったことが工場内に知れわたり、
浩二はみんなからいじめられたのです。
ゲンや進次や英子が、非国民の子とし
ていじめられないためにも、浩二は自
分が兵士になって戦争に行く決心をし
たのでした。

大吉

「非国民といわれてもええ。

卑怯者といわれてもええ。

裏切者といわれてもええ。

死ぬなよ、死ぬなよ。

絶対に生きて帰れ！」

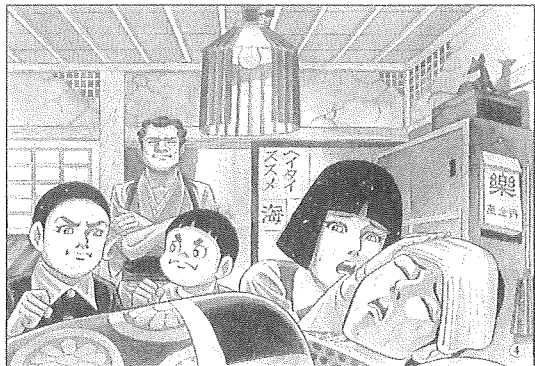
浩二の本当の気持ちを知って、お父
さんはなみだを流して見送りました。

悲しそうに

大きな声で

大きな声ではっきりと

……ぬく……



④

さらに、つぎの不幸が襲ってきました。お母さんが病気になってしまったのです。食べ物もなく、このままではお腹の赤ちゃんも死んでしまいます。

お父さんも、英子ねえちゃんも、ゲンも、進次も、一生懸命看病しましたが、なかなかよくなりません。

栄養のあるものをしっかり食べないといけないのです。

ゲン
「ようし、わしは食べ物をとってくるぞ。お母ちゃんと赤ん坊を死なせてたまるか」

進次
「ほうじゃ」

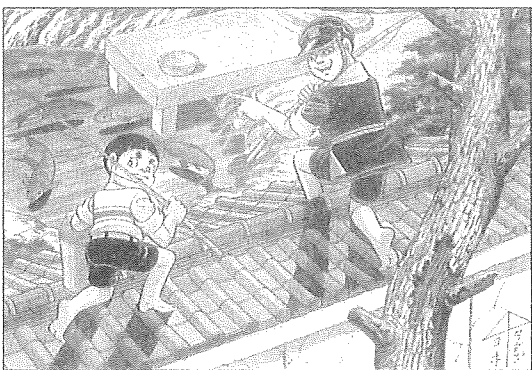
コイの生き血を飲ませると病気がなおることを人から聞いたゲンは、進次をつれて、悪いことは知りながらコイを盗みに行きました。

……ぬく……

力強く

元氣よく

⑤



ゲン

「ガハハハ、おる、おる。いつぱいおるぞ」

うれしそうに

進次

「あんちゃん、大丈夫か。見つかったらぶんなぐられるぞ、恐ろしいのう」

おびえるように

ゲン

「お母ちゃんを助けるためじゃ。がまんせえ」

命令するように

進次

「ゲンと進次は、大きな池のある家に忍びこみました。」

おどおどと

ゲン

「キドキするよ」

小さな声で

「シー、静かにせえ、見つかるぞ」
ぬき足、さし足で池に近づき、つり糸を投げこみました。あつという間に、大きなコイがかかりました。

……ゆっくりぬく……